

# 無収縮モルタル リフレグラウト

(旧)日本道路公団「型枠コンクリート工の断面修復材」品質規格適合品

## 無収縮モルタル リフレグラウトとは

リフレグラウトは大断面修復用無収縮モルタルです。セメントの水和熱による熱応力ひび割れや、乾燥による乾燥収縮ひび割れが懸念される部材の大きな断面の補修工事、型枠注入工法などの断面充填工法などに注入するモルタル充填工法に最適なモルタルです。

## リフレグラウトの特長

- 高流動性**  
材料分離やブリーディングを生じず、良好な流動性を有しており、ポンプ圧送等が可能です。
- 低発熱性**  
一般に使用されている無収縮モルタルに比べて水和熱が小さいので、打設した部材の温度応力を低減することができます。
- 低収縮性**  
一般に使用されている無収縮モルタルに比べて乾燥による収縮量が小さいため、大断面における使用に優れています。



荷姿：  
25kg紙袋入り

※平成19年4月より「フィルコンL」から製品名を変更いたしました。仕様・物性等は従来と変更ありません。  
※荷姿は製造の都合等により予告無く変更する場合がありますので予めご了承下さい。

### 配合例

配合	水材料比 (%)	単体量 (kg)		練上り量 (ℓ)
		リフレグラウト	水	
示方	12.4～14.4	2000(80袋)	248～288	1000
袋		25(1袋)	3.1～3.6	約12.5

注) 気温等により水量は変化しますので、必ず試し練りを行い、水量を決定して下さい。

### 物性値の一例

区分	試験項目	試験値	日本道路公団構造物施工管理要領 型枠コンクリート工の断面修復材 の品質規格
グラウト モルタル	流動性	58.3	20～75 (s)
	ブリージング率(%)	0	0.0～1.0 (%)
	膨張率(%)	1.4	0.0～5.0 (%)
硬化コン クリート	圧縮強度(N/mm <sup>2</sup> ) (7日)	35.3	—
	圧縮強度(N/mm <sup>2</sup> ) (28日)	48.2	既設コンクリートの 設計基準強度以上
	乾燥収縮性 (1ヶ月)	$3.1 \times 10^{-4}$	—
	乾燥収縮性 (3ヶ月)	$4.6 \times 10^{-4}$	$5 \times 10^{-4}$ 以下

※上記のデータは代表値であり、品質保証値ではありません。

### 取り扱い上の注意 ⚠

- 本製品は強いアルカリ性を呈し、目、鼻、皮膚等を刺激したり、粘膜に炎症を起こすことがあります。
- 作業時には、保護手袋、防塵マスク、防塵眼鏡等を必ず着用して下さい。
- 目に入った場合は、きれいな水で十分に洗眼し、直ちに専門医の診察を受けて下さい。
- 皮膚に付着した場合は、きれいな水で十分に洗い流して下さい。

# リフレグラウトの 施工要領概要

## 前準備

- 混練水：酸・油・有機不純物等を含まない清水。
- 混練機：ハンドミキサ・グラウトミキサ等の高速回転型をご用意下さい。手練りによる混練はできませんのでご注意下さい。  
**アルミ製の羽根、容器は使用しないで下さい。**
- その他：必要に応じ、モルタルポンプ・計量器・バケツ・コテ等。
- 清掃：打設箇所表面のレイトンス・油分・塵芥等を除去し、必要に応じてチッピング・プライマ処理等を行って下さい。

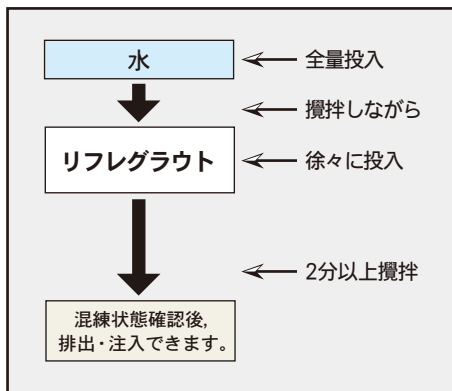
## 施工

- 混練：混練は右図に従い、充分な攪拌を行って下さい。
- 注入：注入条件によって自重圧・ポンプ注入等選択します。注入は打設箇所全体で計画レベルを確保できるよう連続的にいきます。また、パイプレータ等による振動締めめは不適切です。
- 仕上げ：一般的には木ゴテ・金ゴテ仕上げを行います。
- 養生：表面を濡れた布等で被い、2～3日間は湿潤状態を保って初期の乾燥を防いで下さい。寒中施工では保温養生等により初期凍害を防止して下さい。

## 保管

- 開封後：開封後は密封して保管できますが、袋単位で使い切るようにして下さい。
- 積置き：屋内保管を原則とし、降雨・湿気等からなるべく遮断して下さい。

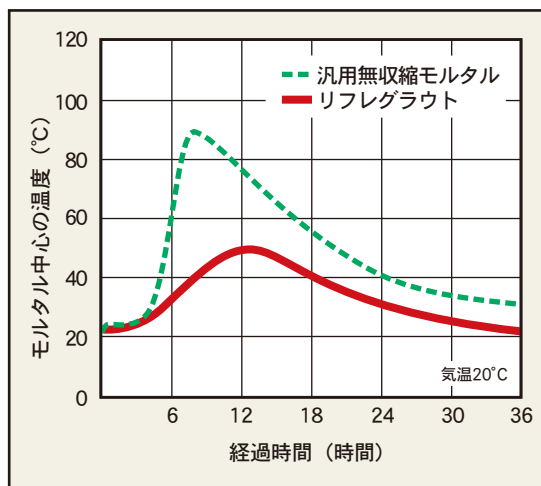
## 混練手順



## 混練状況



## 簡易断熱温度上昇測定例

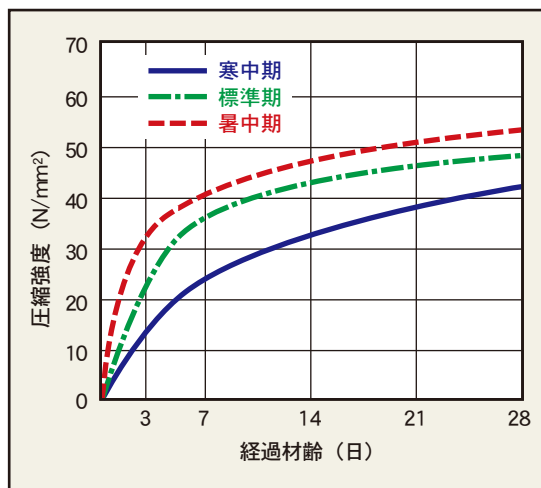


栈橋補修工事



混練状況

## 圧縮強度の測定例



注入状況



注入状況

使用および取扱いの前に、当製品の安全データシート(SDS)をお読みください。  
本カタログの記載内容については、予告無しに変更する場合がありますので、予め御了承願います。

## 住友大阪セメント株式会社 建材事業部

- |                |                                |                 |                  |
|----------------|--------------------------------|-----------------|------------------|
| 東京 千105-8641   | 東京都港区東新橋1-9-2(汐留住友ビル20F)       | 電話 03(6370)2721 | Fax 03(6370)2759 |
| 大阪 千530-0004   | 大阪市北区堂島浜1-4-4(アクア堂島東館15F)      | 電話 06(6342)7704 | Fax 06(6342)7708 |
| 名古屋 千450-0003  | 名古屋市中村区名駅南2-14-19(住友生命名古屋ビル3F) | 電話 052(566)3202 | Fax 052(566)3273 |
| 札幌支店 千060-0003 | 札幌市中央区北三条西2-10-2(札幌HSビル10F)    | 電話 011(241)3901 | Fax 011(221)1017 |
| 東北支店 千980-6003 | 仙台市青葉区中央4-6-1(SS30ビル3F)        | 電話 022(225)5251 | Fax 022(266)2516 |
| 北陸支店 千920-0849 | 金沢市堀川新町2-1(井門金沢ビル7F)           | 電話 076(223)1505 | Fax 076(223)0193 |
| 四国支店 千760-0033 | 高松市丸の内4-4(四国通商ビル6F)            | 電話 087(851)6330 | Fax 087(822)6870 |
| 広島支店 千732-0827 | 広島市南区稲荷町4-1(広島稲荷町NKビル7F)       | 電話 082(577)7645 | Fax 082(577)7646 |
| 福岡支店 千812-0011 | 福岡市博多区博多駅前1-2-5(紙与博多ビル8F)      | 電話 092(481)0186 | Fax 092(471)0530 |

本製品に関するお問い合わせ・ご用命は